

定例記者会見資料



○日 時	平成24年4月13日(金) 13時30分～
○会 場	島根県立大学 本部棟2階 特別応接室
○会見者	本田雄一 理事長・学長
○会見項目	【全キャンパス共通】 ・平成24年度公立大学法人島根県立大学重点項目について……………【資料1】 ・平成24年度公立大学法人島根県立大学当初予算について……………【資料2】 【浜田キャンパス】 ・平成24年度浜田キャンパス公開講座の開催について……………【資料3】 ・平成24年度「浜田キャンパスサポーター」の新規募集について……………【資料4】
○資料提供項目	【浜田キャンパス】 ・平成24年度 NEAR センター市民研究員の募集及び NEAR センター交流懇談の集いについて……………【資料5】
○行事予定	

※会見及び資料提供に関する問い合わせは、資料に記載されている担当者あてにお願いします
なお、行事予定の問い合わせは、以下のとおり、お願いします。

- 浜田キャンパス 総務課 TEL 0855-24-2200
- 出雲キャンパス 管理課 TEL 0853-20-0200
- 松江キャンパス 管理課 TEL 0852-26-5525

マスコットキャラクター「オロリン」です。



平成 24 年度 公立大学法人島根県立大学 重点項目

学部新設・学生確保

- 学部・大学院・短期大学部それぞれの状況に対応した、志願者数増につながる学生募集活動を積極的に行います。(No.6、No.12、No.2)
- 看護学部設置に伴い必要となる駐車場用地を確保し、造成工事に着工します。(No.178)

教育

- 各学部等の教育内容をより一層充実します。
 - 【総合政策学部】授業における T A 及び S A の活用に加え、チューター制度を制定し、授業外における上級生から下級生への学習支援を開始します。(No.72)
 - 【出雲キャンパス】看護実践能力育成のためのシミュレーション教育を充実します。(No.187、No.49)
 - 【松江キャンパス】教育研究の高度な専門性の維持と向上を図り、文科省 G P 「おはなしレストラン、はじまるよ！」の後継事業、地域交流型専門教育プログラムの推進などを実施します。(No.16、No.31、No.43、No.46)
- 在学生、卒業生、企業などと連携しながらキャリア教育を充実します。
 - 【総合政策学部】企業の人材ニーズ調査や本学卒業生の評価の検証を通じ、本学独自のキャリア教育へのフィードバックや人材育成のブランドイメージ構築を実施します。(No.24)
 - 【松江キャンパス】電子掲示板システムによる大学・同窓会間の交流を推進します。(No.63)

学生支援・地域貢献

- 学生の生活実態調査を実施し、分析を行うことにより、学生支援策の検討を具体的に進めます。(No.77)
- 新図書館システムのきめ細かな学生向け情報提供機能を活用し、メディアセンター・図書館からの情報提供拡充を積極的に進めます。(No.135)
- 地域貢献・地域連携を更に進めるための取り組みを充実します。
 - 【浜田キャンパス】地域との協働関係構築に向けた取組を進めます。(No.109)
 - 【出雲キャンパス】より地域に根ざした大学づくりを進めるため、出雲キャンパスモニター制度に加え、タウンミーティングを実施します。(No.176)
 - 【松江キャンパス】公開講座「椿の道アカデミー」が 20 周年を迎えることから、記念講座を開催し、公開講座の一層の充実と魅力づくりを行います。(No.110)

研究・国際交流

- 北東アジア学構築に資するため、平成 23 年度より実施を開始した N E A R センターリサーチツアーの機会を生かして、リサーチツアー先で協力を依頼する諸大学・研究機関と部局間交流等の可能性を検討します。(No.119)
- 学生の海外短期研修など国際交流を積極的に推進します。(No.122)

大学運営・情報公開

- 現中期計画に係る業務実績や自己点検・評価、認証評価を踏まえ、魅力ある大学づくりに資する次期中期計画を策定します。(No.166)

(注)文末の()内は、平成 24 年度計画項目番号を記載しています。

平成 24 年度計画は、ホームページに掲載しています。

<http://www.u-shimane.ac.jp/foundation/publication/index.data/2012plan.pdf>

平成24年度公立大学法人島根県立大学当初予算の概要

●予算編成の考え方

島根県立大学は、平成19年度に3大学が統合・法人化し、3キャンパスの基盤づくりと教育研究の活性化に努めてきました。また、平成22年度に制定した「島根県立大学憲章」に掲げる理念に沿い、全学を挙げて積極的に大学運営に取り組んできたところです。

平成24年度は中期計画最終年度であり現計画の総仕上げと位置付けられることに加え、次期中期計画に繋いでいく重要な時期であることを踏まえた法人運営が必要となります。

一方で、県の運営費交付金が効率化を促す趣旨から毎年度減額される中、平成24年度においては効率化対象経費を縮小する見直しが行われたものの、効率化を継続する方針が示されたため、自律的な運営のための経費削減努力、効果的な事業執行、自己財源の確保等が引き続き求められています。

このため、平成24年度予算案は、「年度計画」及び「重点項目」を踏まえ、中期計画が着実に実行できるよう、教育の質の向上、学生支援の充実、競争的外部資金事業の後継対策、研究の支援、業務の改善、大学環境整備の充実、さらに、東日本大震災を契機として公立大学として求められる対応などに留意しつつ編成を行いました。

●予算の概要

1. 事業費総額

事業費総額は、33億42百万円で、前年度予算（38億85百万円）に比べ、14.0%減（5億43百万円減）となっています。

(単位:千円、%)

区 分	平成24年度当初	平成23年度当初	増 減	増減率
予算規模	3,341,960	3,885,348	▲543,388	▲14.0

2. 収入予算

(単位:千円、%)

区 分	平成24年度当初		平成23年度当初		増 減	増減率
	予算額	構成比	予算額	構成比		
運営費交付金(退手除)	1,769,264	52.9	1,517,403	39.1	251,861	16.6
学生納付金	988,353	29.6	976,226	25.1	12,127	1.2
県補助金(四大化除)	43,716	1.3	119,083	3.1	▲75,367	▲63.3
外部補助金等	26,488	0.8	49,273	1.3	▲22,785	▲46.2
寄附金	40,000	1.2	40,000	1.0	0	0.0
その他収入	85,288	2.6	84,869	2.2	419	0.5
計	2,953,109	88.4	2,786,854	71.7	166,255	6.0
運営費交付金(退手)	117,555	3.5	97,075	2.5	20,480	21.1
県補助金(四大化)	163,163	4.9	879,430	22.6	▲716,267	▲81.4
積立金取崩収入	108,133	3.2	121,989	3.1	▲13,856	▲11.4
合 計	3,341,960	100.0	3,885,348	100.0	▲543,388	▲14.0

○運営費交付金は、給与カットの終了及び人勧影響による増+50百万円、効率化(▲1.3%)による減額分▲10百万円、出雲キャンパス四大化関係経費分の増+147百万円、運営費交付金見直しによる増+67百万円等を見込み、総額で252百万円増(+16.6%)（退職手当除き）となっています。

- 県補助金（大規模修繕等の特殊要因経費に対し10/10補助）は、出雲キャンパス四大化事業分（163百万円）、通常事業分（松江キャンパス中央監視ユニット更新事業等）及び神々の国しまねプロジェクト分を予定し、792百万円減（▲79.3%）となっています。
- 外部補助金等は、受託研究収入等を計上し、23百万円減（▲46.2%）となっています。
- 寄附金は、旧北東アジア学術交流財団寄附金事業に充てるための収入として、平成23年度と同額を計上しています。
- 積立金取崩収入は、「教育研究及び業務運営充実積立金」を財源として実施する事業に充てるための収入として計上し、14百万円減（▲11.4%）となっています。
- ※目的積立金充当事業：教育向上、学生支援、G P後継、研究支援、業務改善、環境整備等に資する事業

3. 支出予算

(単位:千円、%)

区 分	平成24年度当初		平成23年度当初		増 減	増減率
	予算額	構成比	予算額	構成比		
教育経費	266,027	8.0	241,224	6.2	24,803	10.3
研究経費	156,340	4.7	131,787	3.4	24,553	18.6
教育研究支援経費	221,227	6.6	191,710	4.9	29,517	15.4
人件費(退手除)	1,824,798	54.6	1,664,131	42.8	160,667	9.7
一般管理費	458,437	13.7	449,879	11.6	8,558	1.9
施設費事業(四大化除)	38,620	1.2	119,083	3.1	▲80,463	▲67.6
受託事業等	52,966	1.6	80,340	2.1	▲27,374	▲34.1
予備経費	44,173	1.3	45,376	1.2	▲1,203	▲2.7
計	3,062,588	91.6	2,923,530	75.2	139,058	4.8
人件費(退職手当)	117,555	3.5	97,075	2.5	20,480	21.1
施設費事業(四大化)	161,817	4.8	864,743	22.3	▲702,926	▲81.3
合 計	3,341,960	100.0	3,885,348	100.0	▲543,388	▲14.0
特定財源支出除き	2,856,427		2,587,431		268,996	10.4

- 教育経費は、出雲キャンパス四大化経費の増、就職活動推進経費の増、教育備品更新経費の増等により、25百万円の増を見込んでいます。
- 研究経費は、出雲キャンパス四大化に伴う教員研究費の増、神々の国しまねプロジェクト～国際学術シンポジウム2013準備経費の増等により、25百万円の増を見込んでいます。
- 教育研究支援経費は、情報システム更新経費の増、パソコン更新経費の増等により、30百万円の増を見込んでいます。
- 人件費は、給与カットの終了及び人勧影響による増、出雲キャンパス四大化に伴う人員増、退職手当の増等により、181百万円の増を見込んでいます。
- 一般管理費は、出雲キャンパス四大化に伴う施設修繕・設備更新経費の増、財務会計システム更新事業終了による減等により、9百万円の増を見込んでいます。
- 施設費事業には、県補助金を財源とした出雲キャンパス四大化事業費や大規模修繕等の事業を計上しています。
- 受託事業等には、旧北東アジア地域学術交流財団寄附金事業費40百万円等を計上し、文部科学省就業力G P事業等の終了による減等により、27百万円の減を見込んでいます。
- 予備経費は、年度途中の緊急的な支出に備えるため、44百万円を計上しています。
- 支出総額は、5億43百万円減（▲14.0%）となっていますが、特定財源による支出を除くと28億56百万円で、前年度に比べ2億69百万円増（+10.4%）となっています。

※特定財源：運営費交付金(退手)、県補助金、外部補助金、受託研究等収入、旧N E A R寄附金、積立金取崩収入

4. 主な事業の概要

(1) 学部新設

●看護学部設置（四年制大学化）事業（本部）【県補助】 163,163 千円

- ・平成24年4月看護学部設置に伴い必要となる新規駐車場整備（調査、測量、設計、造成・舗装等）及び校舎増築竣工式・学部開設記念式典を実施する。

●福利棟・学生寮厨房機器更新事業（出雲C）〈新規〉 9,500 千円

- ・老朽化が進み故障が頻発している福利棟・学生寮の厨房機器について、四大化に伴う学生数増に対応し、厨房機能を維持・充実するため機器更新を実施する。

(2) 教育の充実、向上

●教務学生システム・図書館システム更新事業（本部）〈新規〉 25,700 千円

- ・平成24年にリース期間が満了する教務学生システム及び図書館システムを更新し、後継システムをリースする。

●「学修と就業の一貫性を構築するキャリア教育」事業（浜田C）〈新規〉 17,249 千円

- ・初年次から地域の職業人と接して学習目的を明確化し、自ら職業に就く能力を身につけることを目的として、少人数グループで地域に出て地域の課題を発見する「フレッシュマン・フィールド・セミナー」や就業力育成のための「海外企業研修」など就業力育成GP事業として採択された内容を継続して実施する。

●「情報教育におけるステップ式学習プログラム」事業（浜田C）〈新規〉 5,567 千円

- ・平成21～23年度に実施したGP事業により構築された情報・統計教育基盤を活用して、引き続き社会調査実習等を開講し、学生の教養教育及び専門能力育成を実施する。

●シミュレーション教育充実事業（出雲C）〈新規〉 9,858 千円

- ・看護実践能力育成機能を強化するため、学内演習として看護現場により近い場面を再現できるシミュレーション教育用の高性能シミュレーターを導入する。

●「おはなしレストラン」事業（松江C）〈新規〉 9,636 千円

- ・平成21～23年度に実施したGP事業の成果を引継ぎ、絵本の読み聞かせを通じた学生の人間力育成のため、おはなしシェフの養成、出前シェフ、おはなしレストランのメニューや素材の充実を実施する。

●フィールドワーク学外実習の充実（松江C） 804 千円

- ・総合文化学科学生が「日本古典文学を歩く」「日本文化演習」「観光英語」等の専門科目において、地域文化の理解や地域資源が溢れるフィールドを活かした学外実習を実施する。

●電子掲示板システムによる大学・同窓会交流推進事業（松江C）〈新規〉 2,609 千円

- ・同窓会で管理する電子掲示板システムを導入し、大学、在学生及び卒業生間の情報交換やアンケート等を実施することにより、教育内容の改善やキャリア支援を充実する。

(3) 学生支援・地域貢献の充実

●学修支援奨学金（全学）〈新規〉 26,260 千円

- ・意欲ある学生への学修支援を行うため、現在の授業料減免制度等を見直し、経済的支援としての学修支援奨学金、入学時奨学金及び成績優秀者奨学金の3メニューからなる新たな奨学金給付制度を創設し、平成24年度入学生から適用する。

●学外巡回パトロール業務委託事業（浜田C）〈新規〉 1,229 千円

- ・学生の安全安心確保を図るため、大学構外周辺地域において夜間の巡回パトロールを業務委託により実施する。

●安全・安心で快適な癒される学生寮づくり事業（出雲C）〈新規〉 5,073 千円

- ・入寮生の安全安心を確保し、相互のコミュニケーションや学力研鑽がより一層図られるよう駐車場整備・外灯設置、食堂の環境改善、談話・学習スペースの確保等を実施する。

●キャンパスマイレージ事業（全学） 984 千円

- ・学生のボランティア活動やエコ活動をポイント化して蓄積し、地域活動及び社会的な実践活動を通じた社会貢献と学びの促進の動機付けとする。また、学生の活動実績はデータとして蓄積し、学内外へ情報発信したり本人の振り返りに活用する。
- ・蓄積されたポイントは、各キャンパスの創意工夫で学生に還元する。

●学生地域ボランティア活動推進事業（全学） 1,110 千円

- ・学生が地域ボランティア活動等に安心して参加することができるよう、活動に際して発生する事故等に対する保険の保険料を大学が負担するとともに、窓口機能の強化、学生との意見交換会の開催等を通じて、学生ボランティア活動の推進を図る。

●椿の道アカデミー20周年記念事業（松江C）〈新規〉 1,280 千円

- ・松江キャンパス公開講座開設20周年を記念して、文化資源探求講座、名誉教授講座、著名人講座などを拡充して実施する。

(4) 研究の活性化・国際交流の推進

●教員研究費（全学） 129,392 千円

- ・出雲キャンパス四大化に伴う教員増に対応して研究費総額を増額
(H23予算) 113,577千円 → (H24予算) 129,392千円

●北東アジア地域研究センター事業 4,953 千円

- ・大学院生の教育・指導の充実を図るため、GP事業「魅力ある大学院教育イニシアティブ」に選定された「実践的北東アジア研究者の養成プログラム」の後継事業である「市民研究員制度運営費共同研究助成事業費」及び「競争的課題研究助成プログラム事業」を継続実施する。

●島根国際学術シンポジウム2013事業（浜田C）【県補助】〈新規〉 5,096 千円

- ・県が展開する「神々の国しまねプロジェクト」の一環として、本学が培ってきた北東アジア研究を踏まえ、古代から現代までの北東アジア地域間交流の歴史や、対米関係も踏まえた北東アジア地域の将来展望をテーマとした、日・中・韓・露・米の研究者による国際学術シンポジウムを平成25年秋に開催するための準備を実施する。

●海外研修奨学金（全学）	12,750 千円
--------------	-----------

- ・本学の特色である「国際的な視野を持った人材養成」実現のため、海外研修奨学金制度を継続・拡充し、研修を通じて異文化に深くふれ合うことで、大学のグローバル化を意識した学修の動機づけを図る。（H23実績）165名

(5) 大学運営・情報公開の充実

●島根県立大学認証評価実施経費（浜田C）	3,250 千円
----------------------	----------

- ・島根県立大学において、平成23年度に実施した自己点検・評価報告を受け、学校教育法に基づき認証評価機関による認証評価を受審する。

●タウンミーティング開催事業（出雲C）〈新規〉	500 千円
-------------------------	--------

- ・近隣地区住民や卒業生・修了生が参加するモニター制度に加え、医療関係者や教育関係者に止まらず幅広く県民の意見を聴き大学運営に反映させるため、石見・隠岐地区においてタウンミーティングを実施する。

(6) 県特殊要因経費補助金（大規模修繕等） 206,879 千円

●看護学部設置（四年制大学化）事業分（再掲）	
・駐車場整備費（調査、測量、設計、造成・舗装等）	161,817 千円
・式典経費（竣工式、学部開設記念式典）	1,346 千円
●神々の国プロジェクト分（再掲）	
・島根国際学術シンポジウム2013準備経費（嘱託人件費、旅費等）	5,096 千円
●通常分	
・松江C：中央監視装置用リモートユニット更新事業、1・2号館ガラスブロック外壁改修事業	38,620 千円

(7) 旧北東アジア地域学術交流財団（旧NEAR財団）寄附金事業 40,000 千円

〔主な事業〕	
・北東アジア学術研究プロジェクト事業	1,000 千円
・北東アジア学術図書出版事業	2,500 千円
・共同プロジェクト研究助成事業	6,500 千円
・地域貢献プロジェクト助成事業	3,900 千円
・学術図書出版助成事業	2,000 千円
・国際学術交流事業	4,585 千円
・研究者等招へい派遣助成事業	1,000 千円
・交流県留学生教育支援事業（奨学金、語学研修）	8,380 千円
・大学院留学生教育支援事業（奨学金、語学研修）	8,635 千円
・国際文化交流促進事業	1,500 千円

受講
無料

平成24年度 公開講座

講座Menu

- 講座Ⅰ 石見に生きる～石見の元気人が話す
- 講座Ⅱ アジアの成長と日本
- 講座Ⅲ 言語を学ぶ
- 講座Ⅳ 石見が生んだ政治家
- 講座Ⅴ 原典にふれる
- 講座Ⅵ 医療と福祉を考える
- 講座Ⅶ 社会を学ぶ
- 講座Ⅷ 世界を歩く

島根県立大学浜田キャンパス
THE UNIVERSITY OF SHIMANE

講座Ⅰ 石見に生きる～石見の元気人が話す

会場：島根県立大学講義・研究棟1階中講義室3



講師名	科目名	概要	開講日
1 大野 雅之 (山内貿易株式会社 代表取締役)	島根のブランド力	山内貿易株式会社は、主にイタリアとの貿易業務を行っております。近年では、瀬九電工が手がけるオーブブランド「AVILO」とのコラボカフェを福岡市にオープンしました。また、東京・シガポール企業の提携し、東京に野菜カフェがオープンし、島根野菜を優先的に使用しております。島根から発信する際に必要なブランディングについて事例を織り交ぜながら、一緒に考えてみたいと思います。	6月20日(水) 18:15～19:45
2 田中 理恵 (NPO法人「ごねっと石見 理事」)	若者が帰って来れる地域へ、 挑戦の連鎖の仕組みをつくる	石見って面白い！安来から江津へ移住し、地域起こしに燃える人達と共に、人材育成・創業支援のNPO法人を立ち上げました。雇用の喪失、人口減少の過疎地域において、今やるべきことは若者の挑戦の場をつくること、Uターン者との島根ツアーやビジネスプランコンテストの開催などを通じて、若者の視点から見た地域活性について事例をもとに整理し、地域で起こった「挑戦の連鎖」を紹介します。	6月27日(水) 18:15～19:45
3 和田 裕子 (アンテナカフェ ハレの日 店主)	繋ぐことで広がる田舎の可能性	食文化の研究所兼情報の発信基地として開店したAntenna Caféハレの日。ここを拠点に地域のいいもの・ユニークな人を繋ぐ活動をしています。全てを一人で担うのではなく、得意分野をみなさんが持ち寄ることで不可能を可能に！これまでの取り組みを紹介しながら、私たちが目指す地域像をお話しさせていただきます。	7月4日(水) 18:15～19:45
4 小林 泰三 (株式会社 小林工房)	石見神楽で生きる！ ～神楽面職人としての生き方	約500年の歴史を持つ「石見神楽」は、地域世代を超えて、多くの人々を魅了している。その石見神楽を支えるのが「神楽面」「神楽衣装」などの工芸品である。神楽面職人の立場から、今後「石見神楽」をどのように盛り上げていくべきか、また自身が取り組む「石見神楽を通じた地域活性」の活動も取り上げながら、石見神楽の魅力に迫っていく。	11月7日(水) 18:15～19:45
5 州濱 正明 (ジックス・プロデュース 有限会社 代表)	日本らしい農業・地域づくりを目指して、 自然放牧酪農への挑戦	島根県立大学在籍中に休学と復学を繰り返しながら現在の活動をスタート。消えかけていた日本古来から伝わる自然放牧酪農を蘇らせ、自然・動物・人が互いの豊かさを創ることの無い暮らし方を模索しています。活動も9年目に突入し、これまでの失敗や反省、これからの展望を含めてお話しさせていただきます。	11月14日(水) 18:15～19:45

講座Ⅱ アジアの成長と日本

会場：島根県立大学講義・研究棟1階中講義室3



講師名	科目名	概要	開講日
6 浅元 薫哉 (日本貿易振興機構 海外調査部欧州ロシアCIS課 課長代理)	ロシア経済・ビジネス	世界貿易機関(WTO)加盟が承認されたロシア。正式加盟は今年秋頃になる見通し。日本の競争力が高い品目で関税障壁が低くなることから日露貿易の拡大が期待できる。統計データを用いてロシア経済、日露間の貿易の現状を概観するとともに、極東を中心とした日本の対露ビジネスの事例を紹介します。	5月16日(水) 18:15～19:45
7 宮尾 正浩 (日本貿易振興機構 松江貿易情報センター所長)	意外と知られていない日本の パートナー国 オーストラリア	グレートバリアリーフ、エアーズロックやココラ、カンガルーなどの観光、鉱物資源や穀物の供給先くらのイメージしかない豪州。しかし、アジア大洋州において、政治的、経済的にも日本の重要なパートナー国であり、あまり知られていない豪州の経済概況・通貨政策・生活状況等を5年駐在した講師の経験から分かりやすくお話しします。	5月30日(水) 18:15～19:45
8 小林 博 (浜田キャンパス)	欧米の経済・金融動向とアジア・ 日本への影響	昨年の世界経済は、ギリシャ問題に端を発した欧州のソブリン債務危機やアメリカ経済の回復力の弱まりから極めて不安定な状態が続いた。本年に入ってから欧米諸国の経済・金融動向とその中国等アジア新興諸国や日本経済・円レートへの影響を中心に説明する。 ※この講座のみ、会場が講義・研究棟1階中講義室4となりますので、ご注意ください。	9月26日(水) 18:15～19:45

講座Ⅲ 言語を学ぶ

会場：島根県立大学講義・研究棟1階中講義室3

講師名	科目名	概要	開講日
9 山田 昌史 (浜田キャンパス)	こどもの言語獲得・おとなの言語学習： 最新研究からコトバの 習得メカニズムを考察する	どうして、こどもはコトバの習得が簡単なのに、おとなは外国語を学ぶのが難しいのでしょうか。本講座では、人間の言語習得メカニズムについて言語学の諸領域だけではなく、様々な学問領域(脳科学、認知科学、心理学、発達学など)の最新の研究を俯瞰しながら概観し、「コトバを学ぶ」とはどんなことなのか、考えます。	6月13日(水) 18:15～19:45
10 江口 真理子 (浜田キャンパス)	イメージでわかる英語音声学	日本語にない英語の発音はコミュニケーションを難しくする原因の一つです。本講座では日本人にとって判別しにくいアメリカ英語の発音、体験したことがあるイメージと結びつけ、音声学理論による説明とミニマルペアを使った練習法を用いて、聞き取ることができるよう解説します。	7月18日(水) 18:15～19:45
11 ケイン・エレナ・アン (浜田キャンパス)	大学生による浜田で英語を勉強する方法	浜田には英語を勉強するためのたくさんの方法がそろっています。多読やFACEBOOK、大学での活動を中心に、セミナーの学生がその方法と魅力について楽しく、わかりやすく紹介します。英語学習に興味のある人は、気軽に聞きに来て下さい。	10月3日(水) 18:15～19:45



講座Ⅳ 石見が生んだ政治家たち

会場：島根県立大学講義・研究棟1階中講義室3

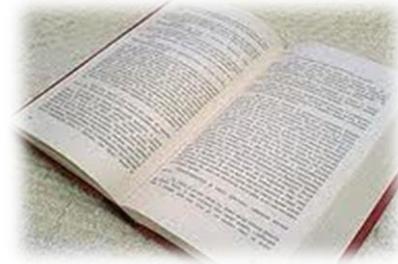
講師名	科目名	概要	開講日
12	石見が生んだ政治家①(佐々田懋)	佐々田懋 …那賀郡木田村(現在の浜田市旭町大字木田)生まれ。尼子氏の流れ。津和野領。代々庄屋。明治6年、19歳で木田・追原両村連合戸長。14年、島根県会初代議長。23年、第1回衆議院選挙当選。27年、政界引退。実業界に。桜内幸雄、安田善次郎らと親交。鉄道、電気等公共的事業。「佐々田奉公会」。服部之聡『佐々田懋翁伝』昭和17年。	10月17日(水) 18:15～19:45
13	飯田 泰三 (浜田キャンパス)	飯田 泰三 …那賀郡浅利村(現在の江津市浅利町)生まれ。萩中学校、山口高等学校を経て東京帝国大学法科大学政治学科学卒。明治36年、東京市長尾崎行雄に見込まれ、東京市教育課長。明治45年、衆議院議員。昭和3年、政友会幹事長。11年、15年、農林大臣。19年、農商大臣。20年、衆議院議長。沖島鎌三「勁統表彰記念 島田俊雄先生」20年。	10月24日(水) 18:15～19:45
14	石見が生んだ政治家③(儀孫一ほか)	儀孫一 …那賀郡原井村(現浜田市原井町)生まれ。第1高等学校、東京帝国大学法科大学。三重県知事、宮城県知事、北海道庁長官。大正13年、衆議院議員。民政党員。昭和4年、商工大臣。 儀松隆康 …迦摩郡静間村(現大田市静間町)生まれ。衆議院議員。 大連茂雄 …那賀郡浜田町(現浜田市)生まれ。東京都長官・内相・文相。	10月31日(水) 18:15～19:45



講座Ⅴ 原典にふれる

会場：島根県立大学講義・研究棟1階中講義室3

講師名	科目名	概要	開講日
15 井上 治 (浜田キャンパス)	井上靖『蒼き狼』の原典『元朝秘史』を読む	井上靖の『蒼き狼』は、読みやすい文庫本が出回り、映画、テレビ時代劇、テレビゲーム化されたことから、日本人にはよく知られた日本発のモンゴル歴史小説である。この講座では、作家井上靖が熟読したといわれるモンゴル語の歴史書『元朝秘史』を紹介し、印象的な場面について原典史料と小説を対照し、両者の関係を考える。	6月7日(木) 18:15～19:45
16 村井 洋 (浜田キャンパス)	キケロー『友情について』を読む	友情は、文化の東西を問わず、老若を越えて人と人の自由な交わりを可能にする交流の典型として捉えられてきました。助け合いと「絆」が求められている今、友情論の古典であるキケロー『友情について』を読みたいと思います。そして、余力があれば、西洋の友情論の流れをたどり、現代社会における友情の意味を考えたいと思います。	7月11日(水) 18:15～19:45
17 村井 洋 (浜田キャンパス)	ヤスパース『原爆と人間の将来』を読む	核兵器の登場と使用は20世紀の人々の意識をどう変えたのでしょうか。20世紀ドイツ哲学を代表するヤスパースの原子爆弾論、『現代の政治意識—原爆と人間の将来—』を手がかりに、核と人間のかかわりを考えます。	12月12日(水) 18:15～19:45



講座Ⅵ 医療と福祉を考える

会場：島根県立大学講義・研究棟1階中講義室3

講師名	科目名	概要	開講日
18 谷田 人司 (日本ALS協会島根県支部副支部長)	ALSの当事者として島根で生きる	ALS(筋萎縮性側索硬化症)という病は、その名前は近年広く知られるようになってきたが、実際にその患者自身がALSとどのように向き合い、どのように生活しているのかを、社会が十分に認識しているとは言えない。本講座では島根で暮らす、ALSの当事者である講師が、その経験から社会が変わることで、患者が生きやすくなることを明らかにする。	5月12日(土) 13:15～14:45
19 平野 文子 (出雲キャンパス)	がんと共に島根で生きる	がんという病気は、今では慢性疾患仲間入りをし、不治の病という代名詞を返上しつつあります。がんと共に生きる人々の様子や患者さん・ご家族を中心とした島根県の取り組み、さらには緩和ケアの現状と課題などを紹介しながら、がんを取り巻く社会の状況と看護について皆様とともに考えたいと思います。	6月16日(土) 13:15～14:45
20 中川 敦 (浜田キャンパス)	遠距離介護の経験とその背景	近年、親と離れて暮らしていた子供が、親の介護やケアのために、頻繁な帰省を繰り返す、遠距離介護という現象が報告されています。遠距離介護者たちはなぜ「通い」というやり方を選び、その中でどんな困難に直面し、またその背景には何が存在するのでしょうか。本講座ではこうした問いについて、社会学の視点から考えたいと思います。	6月30日(土) 13:15～14:45



講座Ⅶ 社会を学ぶ

会場：島根県立大学講義・研究棟1階中講義室3

講師名	科目名	概要	開講日
21 瓜生 忠久 (浜田キャンパス)	地域社会における“映画・映像文化”の実情と未来	2009年以後、石見地域には商業施設としての映画館はゼロである。作品を提供する映画会社は、利益をあげるためにはやむを得ないばかりに、人口の多い都会にシネコンという複合型商業施設を集中させている。しかし、これでは、人口減少が進む地域の人々にとって映画はますます縁遠いものとなってしまふ。映画の魅力は、他の商品とは違うところにある事を明らかにしたい。	6月6日(水) 18:15～19:45
22 金野 和弘 (浜田キャンパス)	情報社会の歩きかた ～多機能情報端末を賢く使いこなすためには～	スマートフォンやタブレットPCなどの情報端末が急速にわれわれの生活に浸透してきています。しかし発展過程にあることもあり、急速な変化を把握するのが難しい状況にあります。本講座では、最新の情報端末で何ができるかを紹介するとともに、使いこなす上で何に注意すべきか、そして今後どのような方向に発展するかを展望します。	10月10日(水) 18:15～19:45
23 藤原 真砂 (浜田キャンパス)	生活時間みる人生の諸相	時間は誰にでも24時間ある。1日の使い方は人生のときどきで異なる様相をみせる。育児に忙しいとき、妻や夫はどのように育児を分担するのか。働き盛りのころ、残業により生活はどのようなしわ寄せを受けるのか。女性は家事や仕事とどのように折り合いをつけているのか。連れ合いが病んだ老夫婦はどのように支えあうのか。人生の時を考えます。	11月21日(水) 18:15～19:45
24 川中 淳子 (浜田キャンパス)	子ども・若者支援の必要性和その現状	「ひきこもり」の若者は70万人とも言われ、不登校児(者)数は12万人を超える。これらの問題は、個人的な問題ではなく社会的な問題であるといえよう。子ども・若者の置かれる状況は厳しく、その中で様々な問題を抱え、支援を必要とする子ども・若者は多いのである。本講座では、子ども・若者支援について考えたい。	11月28日(水) 18:15～19:45

講座Ⅷ 世界を歩く

会場：島根県立大学講義・研究棟1階中講義室2

講座名	科目名	概要	開講日
25 エカテリーナ・マリギナ (島根県環境生活部文化国際課)	ロシアを歩く		6月13日(水) 13:15～14:45
26 ジェイソン・ベックマン (浜田市役所)	アメリカ合衆国を歩く	世界には、たくさんの国や文化があります。この講座では、世界の文化や伝統、観光のおすすめスポットや旅行で使える簡単な会話を紹介します！国際交流員さんとの交流を通して、世界を旅してみませんか～？	6月20日(水) 10:20～11:50
27 金 恩志(キム・オンジ) (浜田市役所)	韓国を歩く	「日本ではこうだけど、外国ではどうなの？」浜田にいなながら、旅しちゃいましょう。興味のある方はぜひ一度ご参加ください。	6月27日(水) 10:20～11:50
28 劉 悦(リウ・エン) (浜田市役所)	中国を歩く		10月3日(水) 13:15～14:45



■公開講座申込方法■

「はがき」「FAX」「電子メール」「電話」にて、下記事項についてお知らせください。

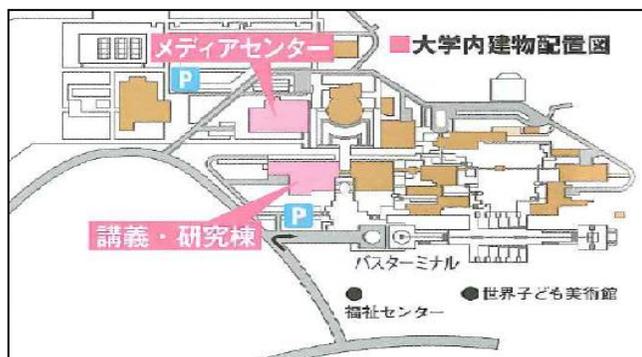
- 講座科目No. (①～⑳でお知らせください。)
- 氏名 (ふりがなを併記してください。)
- 住所
- 電話番号 (急な変更等の連絡に使用します。)

※受講決定の連絡は原則として行いませんので、当日、会場へお越しください。定員は設けませんが、準備の都合上、事前申込をお願いします。

ワンコイン(100円)バス時刻大学線(抜粋)

浜田駅 → 大学	大学 → 浜田駅
10:00	10:11
12:31	12:45
13:00	13:11
17:45	17:56

大学 → 浜田駅	浜田駅 → 大学
12:15	12:31
15:00	15:11
15:30	15:45
20:00	20:11



■ご案内■

平成24年度浜田キャンパスサポーターを募集します

地域の皆さまに、本学の公開講座をはじめ各種イベントにご参加いただき、大学をより身近な存在として感じてもらうとともに、大学の諸活動を応援していただくため、平成23年度より浜田キャンパスサポーター制度を設けています。大学イベントのご案内など様々な「特典」を用意して、たくさんの皆さまからの申込をお待ちしております。



マスコットキャラクター「オロリン」

＜浜田キャンパスサポーター特典＞

・浜田キャンパスサポーターの会員証の発行

公開講座の事前申込みが不要！受付時も会員証の提示だけで受付が完了します。また、大学図書館の利用カードも兼ねますので、本会員証で図書館への入館及び本の貸出サービスがご利用いただけます。

・浜田キャンパス情報の送付

希望される方には、公開講座をはじめとする大学のイベント情報や学生の地域交流活動などを紹介する「オロリタイムズ」を郵送あるいは、メールマガジン「キャンサポ通信」を電子メールでお届けします。

・公開講座「修了証」の発行

公開講座を一年間に一定の回数以上を受講された方には、修了証を発行します。

・サポーター限定！意見交換会の開催

ご希望の講座、大学に対するご要望等をお聞きする場として教員との意見交換会にご案内します。

このほか、平成24年度は、学生との交流や地域連携推進室主催のイベントのサポートなど、より大学に身近な存在として活動していただけるようなイベントを企画していく予定です。

【会費】 年会費 500円

有効期限は当該年度末までで、次年度分は別途更新手続きが必要となります。

浜田キャンパスサポーターにご加入されなくても、従来どおり公開講座を受講することができます。申込方法や年会費納入方法については、大学ホームページ、公開講座当日に配布するチラシあるいは島根県立大学事務局地域連携推進室までお問い合わせください。



〒697-0016 島根県浜田市野原町2433-2
事務局 地域連携推進室

TEL: 0855-24-2396 FAX: 0855-24-2208

E-Mail: kokai@admin.u-shimane.ac.jp

【資料4】

平成23年4月13日(金)
島根県立大学 浜田キャンパス
担当 地域連携推進室 岡田、竹根
電話 0855-24-2201

平成24年度浜田キャンパスサポーターの募集について

1. 目的

島根県立大学は、地域の皆さまに、日頃本学が実施するイベントに参加し、大学施設の利用をご利用いただいておりますが、さらにこれらを促進することで、大学をより身近な存在として、また、大学の諸活動を応援いただけるよう、昨年度、『浜田キャンパスサポーター制度』を創設いたしました。

2年目を迎える今年度からは、年会費をいただき、本格的に制度を実施することとなりました。昨年度同様、サポーターにご登録いただきますと、大学のイベント情報の提供を始め、様々な特典を受けることができます。たくさんのご応募をお待ちしております。

2. 申込資格、会費及び有効期限

- ・どなたでも申し込みいただけます。
- ・年会費500円、会員証を発行します。
- ・有効期限は当該年度末までとし、次年度は更新手続きが必要になります。

3. 申込方法等

- ・申込書は、平成24年4月1日以降、随時、郵送、FAX、電子メール等で受け付けるほか、5月12日より開催する公開講座の会場でも受け付けます。
- ・申込書様式、年会費納入方法、その他詳細については本学ホームページ、あるいは公開講座当日に配布するチラシ等でご案内の予定です。

4. サポーターの特典

①浜田キャンパスサポーター会員証の発行

- ・公開講座の事前申込みが不要となり、会員証を受付に提示いただくだけで受講可能となります。
- ・会員証で図書館への入館及び本の貸出サービスがご利用いただけます。また、一般利用者の方よりも有利な条件で大学図書館の利用が可能になります。

②浜田キャンパス情報の送付

希望される方には、公開講座をはじめとする大学のイベント情報や学生の地域交流活動などを紹介する『オロリタイムズ』を郵送、またはメールマガジン『キャンサポ通信』（電子メール）でお知らせいたします。

③公開講座『修了証』の発行

一年間に一定の回数以上公開講座を受講された方に「修了証」を発行いたします。

④サポーター限定の意見交換会の開催

公開講座等に対するご要望をお聞きする場として、「教員との意見交換会」にご案内い

たします。(平成 24 年度は年 2 回開催予定。)

上記、特典のほか、平成 24 年度からは、学生との交流や地域連携推進室主催イベントのサポートなど、みなさまがより大学に近い存在として活動していただけるイベントを企画していく予定です。

平成 24 年 4 月 13 日
島根県立大学浜田キャンパス
事務局交流研究課 佐草
TEL (0855) 24-2201

NEAR センター市民研究員の募集 及び NEAR センター交流懇談の集いの開催について

島根県立大学では、平成 24 年度「北東アジア地域研究センター市民研究員」を募集しています。

「北東アジア地域研究センター市民研究員」制度は、本学の北東アジア地域研究センター（NEAR センター）の研究活動に広く一般市民の参加を求め、地域の研究者や有識者との連携を強化することにより、NEAR センターの研究活動の活性化並びに大学院教育の充実を図ることを目的として、平成 18 年度に創設したもので、全国的にも例のないユニークな制度です。また、研究を通じて本学の地域貢献活動の一翼も担っていただいております。

昨年度（平成 23 年度）から新たに、市民研究員代表委員を中心とした「市民研究員グループ・リサーチ・サロン（※裏面参照）」をスタートさせ、市民研究員主体の交流・研究活動の場として生まれ変わりました。

この「北東アジア地域研究センター市民研究員」の概要等を説明させていただくことを主旨として、“NEAR センター交流懇談の集い”を下記のとおり開催します。

記

1. 日 時 平成 24 年 4 月 21 日（土） 13 : 00～17 : 00
2. 場 所 島根県立大学交流センター 2F コンベンションホール
3. 内 容（予定）
北東アジア地域研究センター（NEAR センター）についての概要説明
北東アジア地域研究センター（NEAR センター）市民研究員制度説明
参加者の自己紹介
前年度市民研究員登録者の体験談
4. その他 入場無料
参加申込書による申込が必要です。

本内容については本学ホームページにも掲載しています。

平成 24 年 4 月 13 日
島根県立大学浜田キャンパス
事務局交流研究課 佐草
TEL (0855) 24-2201

市民研究員グループ・リサーチ・サロンについて

「市民研究員グループ・リサーチ・サロン」は、市民研究員が主体となって複数の研究グループを組織し、関連する領域の共同研究や情報交換、NEAR 研究員・大学院生と密度の濃い学術交流を行うための集いです。

その活動内容は、市民研究員の皆さんの協議によって様々に形作られることと思いますが、概ね次のような流れで進行していくことを想定しています。

まず、5 月 26 日（土）開催の全体会で自らの関心分野を考慮しつつ、3 つ程度のテーマを掲げるグループ（「地域の中の北東アジア」「北東アジア地域の歴史と文化」「北東アジア地域の現代的課題」の 3 グループを想定）に分かれます。なお、このグループ分けは厳格なものではなく、以後の参加にあたっては移動・かけ持ちを行ってよいものとします。

次に、市民研究員代表委員を中心に、それぞれのグループが展開する活動内容や集会の日程など研究計画を協議します。たとえば、各グループのテーマに即し、何らかの課題を設定した上での共同研究、個人の研究発表を中心とする研究会、共通の関心を探るための読書会、NEAR 研究員や院生を巻き込む形の勉強会など、自由に構想していただきます。また、各グループの集会場所として休日も利用可能な 2 ヶ所（「北東アジア学創成室」「NEAR センター研究交流室」）を用意していますので、各グループの都合に合わせて、定期的に会合を行うことが可能です。

こうしてグループごとの活動内容を練りながら、1 月の市民研究員による研究報告会を一つの成果報告の場として目指し、約半年間の活動を行っていただきます。

このグループ・リサーチ・サロンの活動は昨年度からの試みであり、これまでになかった市民研究員の皆さんの横のつながりと、NEAR 研究員・院生との有機的な連携が発揮され、創造性豊かな活動が展開されるものと期待しております。

北東アジア地域研究センター市民研究員のイメージ

北東アジアに興味あり

市民の皆さん

地域の研究に興味あり

NEARセンター市民研究員

市民研究員に登録すると...

- ・市民研究員全体会参加
- ・グループ・リサーチ・サロン参加
- ・NEARセンターの各種研究会参加
- ・メディアセンター(図書館)利用
- ・学内刊行物各種贈呈
- ・研究成果を年度末報告書に掲載などの機会をご提供

NEARセンター市民研究員

市民研究員は何をするの？

- ⇒研究・交流活動を展開します
- ☆市民研究員全体会、グループ・リサーチ・サロンに参加ください
 - ☆市民研究員相互に、またNEARセンター研究員や本学教員、大学院生たちと北東アジアや地域の課題などを話題に気軽に語り合しましょう

交流懇談の集い
(24.4.21)

全体会

(24年度は計3回の開催を予定)

大学院生

NEARセンター
研究員・教員

院生・研究員・教員と
関心分野で意気投合！

共同研究グループ
を作ってください

6月11日までに共同研究計
画書をご提出ください

選考・採択

共同研究経費の一部を助成します

フィールドワークや
文献調査

たとえば、
この助成金で
グループで活動

北東アジア地域へ
研究調査

市民研究員が相互に
関心分野で意気投合！

3つのサロン(研究グループ)で
共同研究？勉強会？読書会？
茶話会？.....etc.

グループ・リサーチ・サロン

研究資金獲得の助走	地域への政策提言	個人研究の深化	成果発表会	年次報告書
-----------	----------	---------	-------	-------

☆共同研究グループには市民研究員の中から共同研究に参画していただき市民の立場からの知識を院生に与えることで、大学院教育にご協力頂きます。今年度末(3月)に共同研究の成果をご報告頂きます。
(グループ構成:市民研究員+院生+研究員・教員)

☆各研究グループには、今年度末(1月)に活動の成果をご報告頂きます。また、この際には従来通り個人の発表も受け付けます。

市民研究員グループ[®]・リサーチ・サロン

NEAR センター
研究員

大学院生

交流・連携

市民研究員代表委員／連絡会

市民研究員

グループ・リサーチ・サロン



地域の中の北東アジア

【例】山陰/石見地域と北東アジア地域、地域に眠る北東アジアのひと・もの・ことなど



北東アジア地域の歴史と文化

【例】史資料（古文書）発掘・解読、北東アジアの言語、宗教など



北東アジア地域の現在的課題

【例】北東アジア諸国の経済関係・企業活動・外交・環境問題・福祉・人的交流など

大学院生と市民研究員の共同研究

研究・活動成果

研究資金
獲得の助走

個人研究の
深化

地域への
政策提言

成果報告会

年次報告書

地域とともに発展を目指す“開かれた研究機関”

“NEAR センター交流懇談の集い”

北東アジア地域研究センター(NEARセンター) 市民研究員制度

みなさんの興味と知識を通じて研究センターで交流しませんか？
市民研究員にぜひご登録ください。

4/21 “NEAR センター交流懇談の集い”

まずは市民の仲間、大学院生、NEAR センター研究員、
本学教員と懇談。
ぜひ、御参加下さい。

北東アジア地域研究センター(NEARセンター) “グループ・リサーチ・サロン”

3つのサロン（研究グループ）で共同研究？勉強会？読書会？…。
市民研究員・大学院生・教員と共同研究に取り組むこともあります。

「北東アジア地域研究センター市民研究員制度」のご説明をかねて、“NEAR センター交流懇談の集い”を下記の通り開催いたします。

記

- と き 2012年4月21日（土）13:00～
 - ところ 島根県立大学交流センター2F コンベンションホール
 - 次 第 NEAR センター長挨拶、NEAR センター概要・市民研究員制度説明、参加者自己紹介、市民研究員の体験談など
 - お問い合わせ 〒697-0016 島根県浜田市野原町 2433-2
島根県立大学事務局交流研究課
- TEL. 0855(24)2201; FAX. 0855(24)2208; E-Mail: tiki@admin.u-shimane.ac.jp

●島根県立大学北東アジア地域研究センター